

# しろ 城 やま 砦 とりで と よろい 鎧 てん 展

## —伊澤昭ニコレクション—

Izawa shoji Collection

平成26年

期日

11月29日(土)~3月1日(日)

平成27年

主催

狭山市立博物館

開館時間

9時から17時(入館は16時30分まで)

休館日

12月1日、8日、15日、22日、24日、26~31日  
1月1~5日、13日、19日、23日、26日  
2月2日、9日、12日、16日、23日、27日

入館料

一般 150円(100円)

高・大生 100円( 60円)

小・中生 50円( 30円)

※( )内は20名以上の団体料金

※土曜日は小・中学生は無料です。



## 冬期企画展 イベント案内

### ＜城山砦跡見学会＞

内容：博物館からバスを運行し、柏原にある城山砦跡を実際に見学していただきます。  
(所要時間：約1時間半)

1日3便運行 10時、12時、14時出発予定

解説者：名雲 康仁氏

開催日：第1回 平成26年12月13日(土)  
第2回 平成27年 2月14日(土)

参加費用：無料

対象：企画展を見学した方

申込み：当日、博物館にて受付

### ＜足軽体験！城巡りツアー＞全4回

内容：博物館からバスで現地に赴き、城の構造を学ぶと共に、参加者も足軽の甲冑を身にまとい、戦国時代さながらの雰囲気を味わっていただきます。  
※足軽の甲冑は当館で製作したものです。(紙製のため、軽量です)

解説者：名雲 康仁氏

#### 第1回 静岡・神奈川の城(山中城・小田原城) 静岡県三島市・神奈川県小田原市

開催日：平成26年12月14日(日)

集合時間：8時30分

集合場所：狭山市立博物館正面玄関前

解散時間：17時頃博物館到着予定

参加費用：500円(施設入館料、昼食代は別途必要です)

対象：高校生以上

募集人数：20名

申込み：平成26年11月26日(水)9時から電話で博物館へ

#### 第2回 埼玉の城(杉山城) 埼玉県比企郡嵐山町

開催日：平成27年1月16日(金)

集合時間：9時

集合場所：狭山市立博物館正面玄関前

解散時間：17時頃博物館到着予定

参加費用：500円(施設入館料、昼食代は別途必要です)

対象：高校生以上

募集人数：20名

申込み：平成27年1月6日(火)9時から電話で博物館へ

#### 第3回 埼玉の城(菅谷館跡)

埼玉県比企郡嵐山町

開催日：平成27年1月30日(金)

集合時間：9時

集合場所：狭山市立博物館正面玄関前

解散時間：17時頃博物館到着予定

参加費用：500円(施設入館料、昼食代は別途必要です)

対象：高校生以上

募集人数：20名

申込み：平成27年1月6日(火)9時から電話で博物館へ

#### 第4回 埼玉の城(鉢形城) 埼玉県大里郡寄居町

開催日：平成27年2月22日(日)

集合時間：9時

集合場所：狭山市立博物館正面玄関前

解散時間：17時頃博物館到着予定

参加費用：500円(施設入館料、昼食代は別途必要です)

対象：高校生以上

募集人数：20名

申込み：平成27年1月6日(火)9時から電話で博物館へ

狹山市立博物館

〒350-1324 埼玉県狭山市稻荷山1-23-1

TEL 04-2955-3804 FAX 04-2955-3811

<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/>



印刷物には、再生紙を使用しています

## 開催にあたって

城とは、すぐ思い浮かべるのは石垣があり、水堀が巡り、天守閣があるというものです。しかし、そのような城は全国にある城のなかでわずかな数しか有りません。大多数は土壘、空堀で建物は無しといふものです。

狭山市には、「城山砦跡」(別名 柏原城)という名称の城跡があります。規模は小さいのですが、堀は深く、土壘は高く立派な造りです。しかしながら、歴史上の文献にはその存在についての記述が有りません。

今回の企画展では、城といふものの構造について取り上げ、その作り方やなぜこのよう構造にしたかの考え方を提示し、城山砦の構造の特徴を明らかにしていきます。

城は時代により、また築いた武将の考え方により構造が分類できるようになってきました。その分類にあてはめて、城山砦は誰が、いつ、何の目的で、どうしてこの地に城を築いたかについて考えていきます。

また、狭山市在住の甲冑研究家伊澤昭二氏の所有する甲冑を多数展示し、戦国時代の合戦の様に想いをはせて頂きます。

平成26年11月 狹山市立博物館



鉄地黒漆塗五枚胴具足(関東五枚胴)  
後北條氏士豪使用



- 西武池袋線「稻荷山公園駅」より徒歩約3分
- 西武新宿線「狭山市」駅西口からバス稻荷山公園駅行終点下車徒歩約3分
- 圏央道狭山日高インターから車で約15分

ご来館の際は電車・バスのご利用が便利です。

## 狭山市立博物館

〒350-1324 埼玉県狭山市稻荷山1-23-1

TEL 04-2955-3804 FAX 04-2955-3811

<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/>

しろ  
城  
やま  
砦  
とりで  
よろい  
鎧  
てん  
展

—伊澤昭二コレクション—

Izawa shoji Collection



会期：平成26年11月29日（土）～平成27年3月1日（日）

狭山市立博物館

# 開催にあたって

城とは、すぐ思い浮かべるのは石垣があり、水堀が巡り、天守閣があるというものです。しかし、そのような城は全国にある城のなかでわずかな数でしかありません。大多数は土塁、空堀で建物は無しというものです。

狭山市には、「城山砦跡」(別名 柏原城)という名称の城跡があります。規模は小さいのですが、堀は深く、土塁は高く立派な造りです。しかしながら、歴史上の文献にはその存在についての記述がありません。

今回の企画展では、城というものの構造について取り上げ、その作りやなぜこのような構造にしたかの考え方を提示し、城山砦の構造の特徴を明らかにしていきます。

城は時代により、また築いた武将の考え方により構造が分類できるようになってきました。その分類にあてはめて、城山砦は誰が、いつ、何の目的で、どうしてこの地に城を築いたかについて考えていきます。

また、狭山市在住の甲冑研究家伊澤昭二氏の所有する甲冑を多数展示し、戦国時代の合戦の様に想いをはせていただきます。

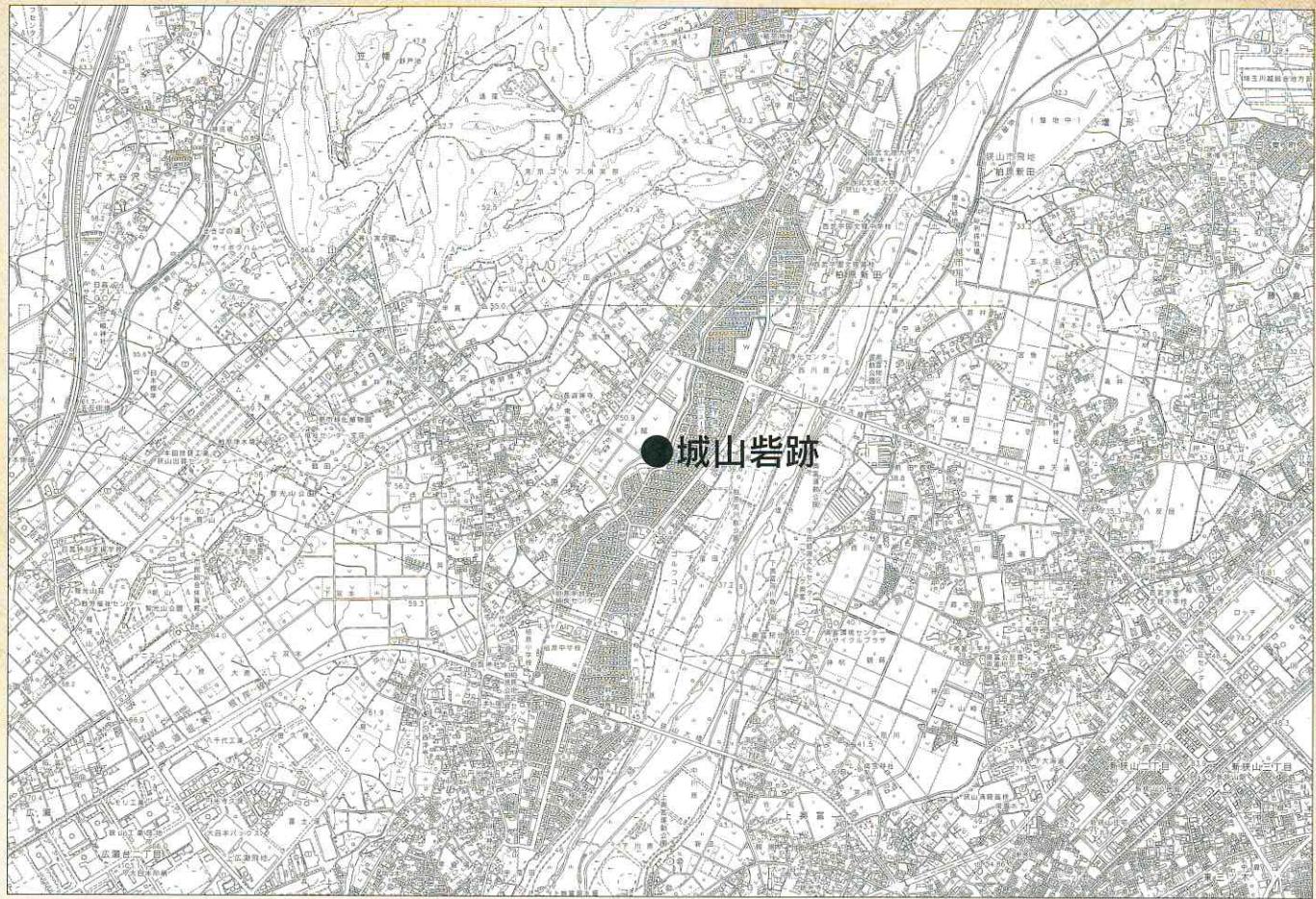
平成26年11月 狹山市立博物館



全 景

## 凡 例

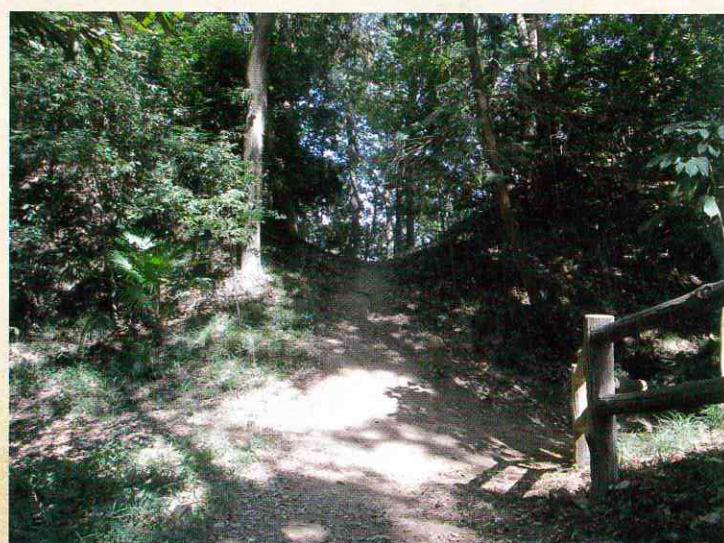
- 1 本書は平成26年11月29日から平成27年3月1日までを会期とする企画展「城山砦と鎧展」のパンフレットである。
- 2 図版は展示資料の一部であり、図版掲載と展示の順序は必ずしも一致していない。
- 3 開催期間中に一部資料の展示替えを行うため、パンフレットに掲載されていても展示されていない資料がある。
- 4 この企画展は、小渕良樹・向野康雄・豊泉はる香が担当した。



柏原にある城山砦跡は市内唯一の中世城郭で、面積は約7,000平方メートルです。現存する砦跡は、沖積面から10mほどの河岸段丘上に、東から本郭・二の郭・三の郭の順に並んでいます。

本郭は東南にやや広がりを持つ台形に近い形状で、東西両側と北側には高さ3mほどの土壘があり、面積は約3,500平方メートルです。ここに立つと、かつての入間川宿を一望に見渡せるので、物見櫓的な施設があったと考えられています。また、北側の土壘上には「折り」と呼ばれる突出部があり、西側の土壘はその一部が空堀に迫り出しています。

東側を除く本郭周囲には空堀が巡っていますが、その深さは平均で約3mです。幅はもっとも広い所7m、狭い所で3mあり、平均は約4mです。南側の堀は現在道路となっているため傾斜はゆるやかですが、かつては段丘とほぼ直角に交わる堅堀構造で、敵の攻撃に対処できるようになっていたと思われます。



城山砦跡虎口

二の郭は本郭の西側にあり、本郭とは深さ3m、幅3mほどの空堀で区切られ、北東端部が突き出た形状をしています。本郭とは土橋で結ばれていたと思われますが、土壘が見られないでの、あるいは本郭からの「馬出し」と見ることもできます。

三の郭は二の郭の西側にあり、北側には堀状の遺構があります。この遺構は現在、大部分が埋まっていますが、かつては本郭を巡る空堀と同程度のものだったと推察されています。土壘は認められませんが、削り取られた可能性があります。

埼玉県選定重要遺跡 狹山市指定文化財〔記念物・史跡〕

指定日 昭和48年(1973)3月1日

## 城とは

城とはどのようなものをイメージするでしょうか。大方の人は石垣があり水を溜めた堀で囲まれその中央には高層の天守閣がある姿を想像するでしょう。しかしそのような城は日本に造られた城の1割にも満たない数なのです。大多数の城は地面を掘っただけの堀とその土を積み上げた土壘でできています。しかし、その土壘・堀の配置構造が重要なのです。敵を城の中に入れない工夫を随所に盛り込んでいます。

狭山市に城があるというと驚かれる方も多いでしょう。実はあるのです。



## 城の構造

特定の地域を敵の侵攻から防るために築いた構造物です。堀や土壘で囲ってその内側を守る為にいろいろと工夫がされています。

### ●虎口(こぐち)

虎口は最初は小口とされていたました。城の出入り口のことです。虎の牙で入り口を守るという意味で虎口と書くようになりました。

### ●馬出(うまだし)

虎口は、堀と土壘で囲まれた城の中で唯一外につながっている所です。防御としては弱点となる場所です。その部分を防御するために造られた施設が馬出です。虎口の前に堀と土壘を配置して、直線的に虎口へ攻められないようにすることと、土壘の内側で防御することを目的としています。

### ●堀(ほり)

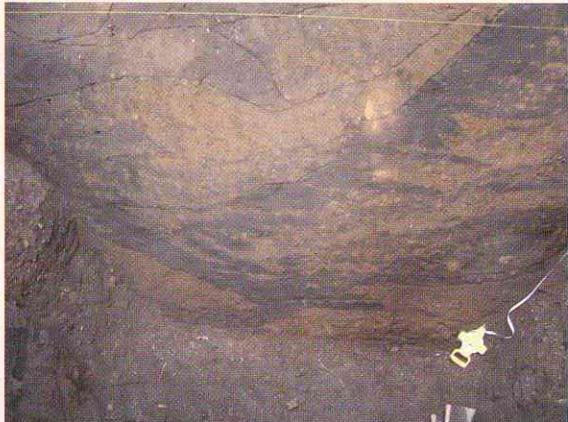
溝を掘り、通行を妨げる働きがあります。種類は、そこに水を溜めた水堀と、水のない空堀に分けられます。

### ●土壘(どるい)

土を盛り上げて通行を遮断するものです。堀を掘ったときに出来る土を利用したことは充分に考えられます。土壘を乗り越えて内部に行くのは多大な労力がかかります。

### ●橋

堀を渡るために橋が架けられています。木で造られた木橋、土で造られた土橋などがあります。木の橋はいざというときは壊して虎口を守ります。しかし形勢が逆転して城から攻めにでるときには不便になります。土橋は堀を掘るときに橋になる部分を掘り残して造った物です。城の守り方も壊せないが敵方にも壊されない構造です。



城山砦跡 堀の断面



城山砦跡 堀の断面

## 城山砦跡の調査

城山砦跡は狭山市教育委員会で平成18年から平成23年にかけて1～3次の確認調査が実施されています。いずれも堀の状態や本郭内の遺構の確認のための調査でした。堀の調査では、一部に中世の底と版築工法による土壘修復跡が確認されました。本郭内の調査では中世の遺構・遺物は発見されませんでした。この確認調査では、堀の構造の一部が判明したもののが築造時期などを解明する資料は得られませんでした。

きんぱくおしいいろいろおどし よ ざねどうまる ぐそく もりらんまる しょよう  
**金箔押色々威伊予札胴丸具足 伝 森蘭丸 所用**

安土桃山時代

蘭丸は美濃金山城主・森可成の三男として金山城で生まれ、若くして織田信長に仕え筆頭小姓となりました。天正10年(1582)6月2日未明、京都本能寺に於いて主君信長と共に討ち死にを遂げています。

本品は森蘭丸所用と伝え、近江の豪商伴伝兵衛(扇屋伝兵衛)家に代々伝えられました。兜は鉄地6枚張で、日根野鎧を付した阿古陀形です。前立てには、銀箔押煉革製の経文(南無阿弥陀仏)の6文字の前立物を添えています。胴は鉄地伊予札を黒革包みとした胴丸形式で、黒糸で素懸威にしています。草摺は革製金箔押七間四段としています。袖は板物五段仕立ての当世袖。胴を除く威毛は萌葱・白・紅で威した色々威です。三具は籠手・臑當を篠形式に、佩盾は板佩盾形式としています。具足櫃は桧製で、正面に「八幡山新町具足櫃 森蘭丸公御召 扇屋伝兵衛」左側には「伴伝兵衛」と記されています。他に網代製軍配団扇が付属します。



こくしつめり に まいほとけどう ぐそく おばたのぶさだ しょよう  
**黒漆塗二枚仏胴具足 伝 小幡信貞 所用**

戦国時代

のぶさだ 信貞は上州国峰城主で、武田信玄、勝頼二代に仕え、長篠合戦では武田の赤備として有名を馳せていました。武田家滅亡後は、後北條氏に属し天正18年(1590)の秀吉の小田原攻めの際には小田原城に入城。小田原開城以前に家康に降るも戦後、秀吉の命で家名は断絶しています。

本品は小幡信貞所用と伝えるもので、兜は鉄地黒漆塗六枚張の突盔形鉢で、南蛮の趣もあります。しころは鉄地黒漆塗五枚の日根野しころで、黒糸で素懸威にし、前立は木製で銀箔押しとした天衝を挿入しています。面頬は鉄地黒漆塗の半頬。胴は鉄地黒漆塗の胸取威にした二枚仏胴で、前面に六柏葉紋を、背面には团扇をそれぞれ金箔で描いています。草摺は革包み伊予札を黒漆塗にした六間四段で、裾板の半分を金箔押しにし黒糸で素懸威にしています。籠手・臑當は根来風塗とし、佩盾は革製板佩盾形式で左右に日輪を描いています。他に赤羅紗陣羽織・軍配が付属します。



てつじくろしつぬりじゅうにけんすじかぶとみつうろこすえかなものつき  
**鉄地黒漆塗十二間筋兜三鱗据金物付**

ほうじょううじやす しょよう  
**伝 北條氏康 所用**

室町時代

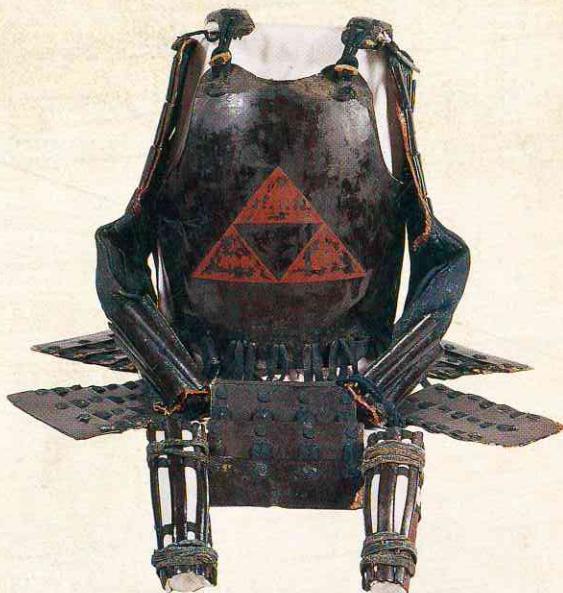
鉄は鉄地十二枚張り阿古陀形の黒漆塗です。しころは笠しころで、上段に鎖仕立ての下散を3枚付けています。吹返の据紋・鉢付鉢・笠印付鎧鉢は、全て北條家の定紋三鱗です。眉庇・吹返・八幡座は鮫皮風に打ち出しています。



わしせいこくしつぬりにまいほとけどう おだわらほうじょうしかちゅう  
**和紙製黒漆塗二枚胴 小田原北條氏家中**

安土桃山時代

本資料は古紙を素材としています。胴は形崩れを防ぐために、3本の細い鉄を胴裏に綴じ付けています。胴の前面と背面には朱塗りで三鱗紋を描いています。胴裏の前面に「相州小田原城内矢倉三十之内」の朱書きがあります。籠手は木綿の家地に小篠・亀甲を綴じ付けた手甲のない形です。臑當ては家地のない五本篠です。



てつじくろしつぬりごまいどうぐそく  
**鉄地黒漆塗五枚胴具足(関東五枚胴)**

ほうじょうしどごうしょよう  
**後北條氏土豪使用**

安土桃山時代

天正十八年(1590)、豊臣秀吉は小田原の北條攻めに、真田昌幸・前田利家・上杉景勝らに命じ武藏一帯の支城攻略を命じました。

この折りに鉢形・八王子城の兵士たち(在地小土豪)の着料した関東五枚胴が現存しています。この在地小土豪の武力集団の着料として生まれたのが、関東五枚胴と考えられています。

遺品は極めて少なく、今回の発見を加えても三領のみです。の胴は鉄地黒漆塗(胸板・脇板左右・背板の上部を赤漆塗皺皮包み)とした横矧五枚胴形式です。草摺は全て鉄地赤漆塗皺包みで、左わきの一間と右脇の後側の草摺が欠失しています。搖は鎖綴じとしています。胸板は広く、左右の脇板の頂辺は山形に盛り上がり、腰は極端に狭まり関東五枚胴の特徴を良く表しています。





黒漆塗鉄製陣笠 合印 五本剣形



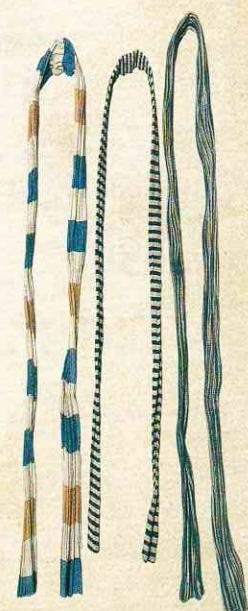
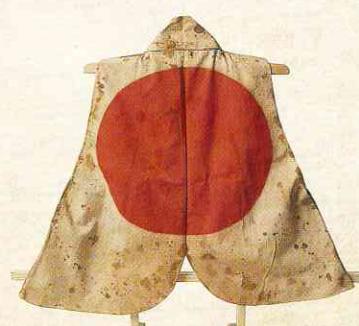
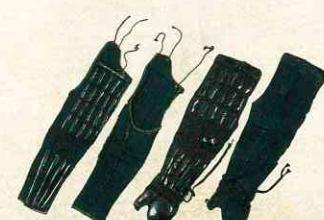
黒漆塗和紙製陣笠 合印 釘抜  
権藤家中



朱漆塗二枚桶側胴  
合印 斜め二引



黒漆塗二枚仏胴  
合印 丸に楓の葉



足軽具足：陣笠・胴・陣羽織・股引・籠手・臑當・上帶・下帶  
jinkasa どう jinburi またひき こて すねあて

# 展示品目録

- 徳川16将図  
伊澤昭二コレクション
- 金箔押色々威し伊予札胴丸具足 伝 森蘭丸所用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗網代製軍配团扇 伝 森蘭丸所用  
伊澤昭二コレクション
- 鉄地黒漆塗縦矧二枚胴具足 伝 上杉景勝 所用  
伊澤昭二コレクション
- 太閤桐紋白沙羅陣羽織 伝 豊臣秀吉 所用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴具足 伝 小幡信貞 所用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗軍配 伝 小幡信貞 所用  
伊澤昭二コレクション
- 六柏葉紋赤羅紗地陣羽織 伝 小幡信貞 所用  
伊澤昭二コレクション
- 落合左平次背旗の図 平山兵原(子龍)筆  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗日月軍配 伝 北條氏康 所用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗軍配 伝 伊勢新九郎長氏(早雲)所用写し  
伊澤昭二コレクション
- 鉄地黒漆塗十二間筋兜三鱗据金物付 伝 北條氏康 所用  
伊澤昭二コレクション
- 和紙製黒漆塗二枚仏胴 小田原北條氏家中  
伊澤昭二コレクション
- 鉄地黒漆塗五枚胴具足(関東五枚胴) 後北條氏土豪使用  
伊澤昭二コレクション
- 鉄地黒漆塗五枚胴 伝 北條氏所用三鱗紋付  
伊澤昭二コレクション
- あら波 旗印 九鬼水軍 小田原の陣使用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗三十二間筋兜 伝 稲葉貞通 所用  
伊澤昭二コレクション
- 二ッ尾長巴紋前立付頭形兜 伝 小山氏 所用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗古桃形兜  
伊澤昭二コレクション
- 金箔押桃形兜  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗古頭形兜  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗煉革製陣笠 合印 菊に三蝶 大河内松平家中  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗和紙製陣笠 合印 太輪  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗鉄製陣笠 合印 三段昇り梯子 牧野家中  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗和紙製陣笠 合印 釘抜 権藤家中  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗鉄製陣笠 合印 五本剣形  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗煉革製陣笠 合印 山形  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 柳生二枚笠  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 抱違棒  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 いの字  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 笹  
伊澤昭二コレクション
- 朱漆塗二枚桶側胴 合印 剣大の字  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 十の字  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 相良木瓜  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 切竹クルス  
伊澤昭二コレクション
- 朱漆塗二枚桶側胴 合印 六本源氏車  
伊澤昭二コレクション
- 朱漆塗二枚桶側胴 合印 斜め二引  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 三ツ星  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 丸に棍の葉  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 五段昇り梯子  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 三日月  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 菊に三蝶  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚桶側胴 合印 菊に三蝶 足軽小頭クラス  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 三引  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗二枚仏胴 合印 三段昇り梯子  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗堅矧前懸胴 鉄砲足軽隊用  
伊澤昭二コレクション
- 黒漆塗前懸仏胴 合印 三引  
伊澤昭二コレクション
- 足軽具足 胴・陣笠・籠手・脣当・陣羽織  
伊澤昭二コレクション
- 紺糸威段替胴具足 当館所蔵
- 紺糸威六枚胴具足 当館所蔵
- 紺糸威獅噛具足 当館所蔵
- 刀 当館所蔵
- 刀 当館所蔵
- 刀鍔 当館所蔵
- 火縄銃 当館所蔵